

次世代ワーキンググループ NEWS

# まちづくり“夢”新聞

Vol.3

平成26年8月12日

(発行元)

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム  
旭川市1条通8丁目 フィール旭川7階  
TEL/FAX 26-0338  
(委託者)旭川市総合政策部総合計画課

## 【次世代ワーキンググループとは】

現在、旭川市が進めている次期総合計画の策定に向けて、未来を担う子どもたちが主役となり、自分たちが考える旭川市の理想や想いを市に提言するため、市内の小学生・中学生・高校生が集まり次世代ワーキングが発足しました。次世代ワーキンググループは、7月27日、8月10日、8月12日の3日間活動します。

## ○最終日始まる！

いよいよ次世代ワーキンググループ最終日となる3日目が始まります。

3日間の活動の集大成となる今日は、市長へ直接、自分たちの考える『未来の旭川』を提言します。

## ○活動開始

今日は、発表に向け、大学生がサポート役となり、小・中・高校生が年代ごとに意見をまとめていきます。

それぞれがインタビューを通じて考えたことや、日頃考えていることなどを発表し合い『未来の旭川』について考えていきます。小学生は、みんなで意見を発表し合ったあと、班に分かれて作業をしました。もくもくと画用紙にみんなに伝えたいことを書いていました。



中学生は、福祉・教育・産業・観光の分野に焦点をあて、『未来の旭川』について考えていました。

高校生は、「社会的弱者」について深く考えながら、旭川の直面する課題など、さまざまな分野について話を広げ、『未来の旭川』について考えていました。

あっという間に時間は過ぎ、昼食の時間になりましたが、発表を控えて子どもたちは落ち着かない様子で、ご飯を早く食べ終え発表の練習をしたり、作業を行ったりしていました。市長への提言に向け、気合い十分です！

## ○いざ提言！



13:00 市長を迎え、いよいよ子供たちの考える『未来の旭川』の発表が始まりました。斉藤座長から激励の挨拶があり、市長からは本日を楽しみにしてきたこと、そして、子どもたちの発表に期待しているという御挨拶をいただきました。

### 【小学生グループ】～「緑のまち旭川」～

発表は画用紙を紙芝居に見たてて行いました。3人一班で1枚ずつ画用紙に意見を書き、それを合わせてひとつの作品にしました。

画用紙を使って発表すると後ろの人には見えないため、1枚1枚写真を撮り、スクリーンに映して発表を行うという工夫をしていました。

小学生グループからは、まずインタビューから学んだことを発表し、その後、小学生が考えた旭川の良いところを発表しました。旭川には有名な旭山動物園や、買物公園にお店がたくさんあること。また、自然災害が少なく、安心して暮らせることが旭川の良いところであると発表していました。



そして、小学生グループの考える『未来の旭川』は、「緑のまち旭川」であり、空気がきれいで自然が多く、すべての人にとって住みやすい旭川になってほしいという願いを発表していました。

みんなが住みやすくなれば、人口も増え、観光客も増えるかもしれないと言っていたのが印象的でした。



## 【中学生グループ】～「魅せる旭川」～

発表はプレゼンソフトを使い、アニメーションを工夫するなど、市長や聞く人に伝えるための準備に余念がありませんでした。

中学生グループは、福祉・教育・産業・観光ごとに、『未来の旭川』について発表しました。

福祉では、高齢者や障害者の方にやさしいまちを目指して、街全体に点字ブロックが設置され、音の鳴る信号機をいたるところに設置したら良

い。さらに、高齢者と若者の交流の場がもっとあれば、あたたかなまちになると発表しました。

教育では、遠友塾のような生涯学習の場や、人々の交流の場がもっと必要であり、産業では、旭川家具というブランドをもっと広めていくために、まずは自分たちが旭川のものを使い、その魅力を伝えていきたいと発表していました。

最後に観光では、旭山動物園やスタルヒン球場などの観光客をもっと増やすために、動物園をさらに充実することや、スタルヒン球場のドーム化により試合数を増やすこと、またアーティストを呼んでライブを行うというアイデアを発表していました。

中学生グループの考える『未来の旭川』は「魅せる旭川」であり、旭川の魅力を発揮し、それを広めることで一層良いまちになると考え、そのためには、実際に旭川に住む自分たちができることをひとつずつやっていくこと、そして、みんながずっと住んでくれる旭川になれば良いと発表していました。



## 【高校生グループ】～「美しい街」～

発表は中学生と同様にプレゼンソフトで行いました。

さすが高校生，見やすくわかりやすい内容に仕上がっていました。

高校生グループは，どうして「社会的弱者」が生まれるのかについて考えた結果，社会的弱者とされる人々に問題があるのではなく，それを支援できない環境に問題があると考えました。

そこから，例えば車いすの人が移動しやすいように段差を下げるなどの工夫が必要であり，これは，社会的弱者のためだけでなく，そこに住むすべての人のためになるため，「社会的弱者を作らない環境づくり」をしてほしいと発表しました。

次に，各世代の発表を参考に教育・行政・福祉・工業・インフラ・観光という6つのジャンルで目指すべきまちの理想について考えました。

教育では，大学進学のために旭川から人が離れてしまうという現状から総合大学の建設，また障害に対する知識を身につける場の提供が重要であると考えました。

行政では，イベントの強化で観光客を増やすこと，福祉では，ボランティアなどの人とつながる活動の増加，社会的弱者に優しいまちづくりを進めるべきと発表していました。

工業では，旭川家具を広めていくことや，雪を使った冷房をもっと広めていくこと，さらにインフラでは，人々が交流できる場をもっと増やすこと，交通機関の発達やWi-Fi環境の充実，また音の出る信号やエレベーターの増設が必要と考えました。

観光では，外国人のための案内所の増加，観光バスを増やすことなどが重要で，これらのことを，市民が一丸となって進めることが大切だと考えました。

最後に，この日参加した8人の高校生がそれぞれの想いを発表しました。なかでも印象的だったのは，「将来は旭川で仕事に就きたい」，「自分たちが住みやすい街にするために，まずはゴミ拾いをします」という発表で，住民としての自覚が現れているように感じました。

これらを踏まえて高校生が考えた『未来の旭川』は「美しい街」です。環境だけでなく，そこに住む人々も「美しい心」を持ってほしい。そのために，まずは自分たちができることをがんばっていき，「美しい街」を目指したいと結んでいました。



## ○発表を終えて

それぞれの発表を受けて先生や大学生スタッフからコメントをいただきました。

小学生グループの大学生スタッフ代表からは、「はじめは小学生ということもあり話し合いがスムーズに進むか心配だったが、小学生のがんばりのおかげで良い発表になった。

中学生グループの副代表からは「とても良い発表だった。こうした発表ができたのは中学生のおかげであり、自分は支えてもらっただけが、素晴らしい活動だったと思う。」

高校生グループの代表からは「高校生は難しい話や議題を扱い、提言として難しかったと思うが、みんながしっかりそれに応えてくれて良い発表になった。」とそれぞれコメントしました。

また、旭川大学の栗田先生、教育大学旭川校の芝木先生、座長の斉藤先生から講評をいただきました。

その後、市長から子供たちの代表に修了証が渡され、講評をいただきました。市長自身の旭川への想いを聞き、「みなさんが大人になる頃に、ここに住んでいて良かったと思ってもらえるように頑張りたい」というコメントをいただき、発表会が終わりました。

子供たちの願いが未来の旭川に届くことを願います。



## ○記念撮影

市長と子どもたち、そしてあさっぴーも入り、みんなで記念撮影を行いました。

子どもたちはあさっぴーの登場で大興奮でした。



## ○閉会式

3日間の活動の締めくくりとなる閉会式が始まりました。子どもたちのための3日間は、忙しくもあり、いろいろと考えをめぐらす大変な時間だったと思いますが、閉会式に臨む子どもたちはひとまわりもふたまわりも大きく成長したようでした。



閉会式では齊藤座長、竹中先生、大学生スタッフの代表と副代表から挨拶し、大学生スタッフから子どもたちひとりひとりに修了証が渡されました。

1日目に初めて会った子どもたちと大学生スタッフは、最後には円になり笑顔で会話を交わしていました。その様子から次世代ワーキンググループが大成功だったと改めて実感しました。

## ○終わりに

帰り際は、みんな名残惜しそうで思い思いに3日間を振り返っていました。

ある高校生からは「3日しかいなかったのにずっといたみたいだ」、またある高校生は、発表に使った画用紙の後ろにさりげなく「ありがとう」という言葉を残してくれました。

小学生の数人は、大学生に「またね！」と声をかけて帰っていきました。

今回の次世代ワーキンググループでつながった絆がいつまでも続き、またどこかで会えることを期待しています。

## 次回予告

子どもたちの3日間の活動が無事終わりました。参加した誰もがとても充実した3日間と感じたことでしょう。

しかし、大学生グループの活動はこれからです。11月頃に予定する「市民発表会」で、大学生の考える『未来の旭川』を提言します。

今回の活動で子供たちが魅せてくれた発表を活かし、大学生が思い描く未来を発表します。子どもたちの活動は今回で終わりますが、その想いはこれから先も活かされていきます。市民発表会に是非ご期待ください！！